

発行所(郵便番号100)
 東京都千代田区丸の内2-4-1
 丸の内ビルディング617号室
 社団法人スウェーデン社会研究所
 Tel (5412) 0503
 Fax (5412) 0549
 編集責任者 岡 沢 憲 美
 印刷所 関東図書株式会社
 定価400円(年間購読料四千元)
 1996年12月25日発行
 No.302 第27巻12号
 (毎月1回25日発行)
 昭和44年12月23日第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

No. 302 Bulletin Vol. 27 No. 12号

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
 (The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
 Marunouchi-Bldg., No. 617 Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan.



(右:スウェーデン・エコロジー研究会)



(上:ルシアー姫一行のパフォーマンス)

目次

恵比寿ガーデンプレイスでのルシア祭とエコロジー研究会	1
キールナコミュニティ、ホームヘルパー6時間労働の試み	多田 葉子... 2
ご案内	3
Faxed from Sweden	4
スウェーデン環境ニュース	5
Japan Calendar	6
Vol. 27 研究月報目次一覧	8

キールナコミュニティ、 ホームヘルパー 6 時間労働の試み

6 - timmars arbetsdag för vardblträden i Kiruna kommun

ルンド大学大学院生 多田葉子
Ms. Yoko Tada

魅力ある福祉現場・労働環境を創造することは、高齢者福祉を支える人材を獲得するための必要条件であるといえる。スウェーデンの高齢者福祉は、その豊富な人材も長所の一つであるが、スタッフ確保のためにどのような努力がなされているのであろうか。スウェーデン最北のコミュニティ／キールナコミュニティでは、ホームヘルパーの労働環境改善の試み、全国でも画期的な試みがなされた。キールナコミュニティは、鉄鉱石の産地として名高く、およそ100年ほど前に町の建設がはじまったきっかけも鉄鉱石の発見が引き金であった。人口は約2万6千人であり、高齢化率は13%と全国平均(18%弱)をかなり下回っている。面積はおよそ2万平方メートルとスウェーデンで最も大きな市である。この小さくて、大きなコミュニティが1989年に試みた実験は多くの示唆を与えている。

スウェーデンの高齢者福祉サービスにおいて実際に高齢者の身の回りの世話をしているのは、看護助手と准看護婦である。これら看護助手、准看護婦の多くは、パートタイム労働者である。看護助手の平均労働時間は60%から70%であると言われ、フルタイム労働の看護助手は20%をきると言われている。スウェーデンは労働者保護の国としても知られている。たとえば高齢者福祉の現場では、スタッフのための休憩室が必ず備えられ、そこでゆっくりとお茶を楽しんでいるのは日常の風景である。就寝介助やトイレ介助などは必ずリフトが利用され、二人一組で介助にあたる。それでもホームヘルプに携わる看護助手の病欠は他の職業に比べ一般に頻度が高いと報告されている。こうした状況から看護助手の多くは肉体的かつ精神的にフルタイム労働が不可能なのではないかという疑問が提示された。

キールナコミュニティの実験は、ホームヘルプに携わる約200名の看護助手に6時間労働で8時間労働の賃金を与えるという試みであった。6時間労働実行当時は、コミュニティ内に25人のフルタイ

ムホームヘルパーと、約30人の補足ヘルパーがいた。補足ヘルパーは、文字どおり補充人員であり、部分的失業者であるとも言え、可能な限り労働時間を増やす必要性があった。45人が50%労働から6時間労働(75%)へ、15人が65%から6時間労働に切り替わった。結果として、約半数のホームヘルパーが労働時間を変更した。労働時間変更と同時に労働形式の変更も行われた。たとえば、毎日朝と午後2回15分のミーティングが設けられた。

8時から14時と、14時から20時のシフトに分けられ、3週間毎に週末の介助を担当することになった。一つのグループに共通の任務が与えられ、それまでのグループ長職は徐々に廃止している。

(グループ長が退職しても補充しないなどの方法で廃止。)ところで、6時間労働の実行はコミュニティ財政、公的財政にどのような影響を与えたであろうか。6時間労働で8時間労働の賃金を支払えば、当然支出が増加するのではないかというのは短絡的結論である。

まず6時間労働導入のコストから見てみる。6時間労働が導入されなかった場合の賃上げ額をどのように推定するか、また組合の要求がどのように異なり、コミュニティが組合の要求をどの程度受け入れることができたかによってコストの推定は大きくことなる。最高560万クローナから最低220万クローナと見積もられている。これは制度導入前後年の支出をもとに概算されており、移行のためのコストも含まれている。したがって、長期的にはこのコストは減少すると予想される。

6時間労働導入に際して、コミュニティの収入も増加した。最も大きな収入増の理由は、労働災害などによる配置替えの必要性が減少したことである。1988年には25名の看護助手が何らかの労働災害によって配置替えされたが、1989年にはわずか6名が配置替えを必要とした。その他の収入増の理由としては、ヘルパーの所得増による税収入の増加(ただしこれは同時に国庫補助金の減少を意

味するが)、グループ長職の削除、人員補充の必要性の減少などがあげられる。またこの他の収入源として考えられるのは、労働時間短縮によって児童福祉の利用時間が減少したことと、給与増によって住宅補助などの社会保障手当が減少したことがあげられる。これらを推定概算すると200万クローナから300万クローナの収入があったと考えられる。

6時間労働導入によって、コミュニンのみならず国の収入も増加した。収入源としてあげられるのは、国庫補助金の減少、部分失業者への失業手当の減少、雇業者拠出金の増加(これはコミュニンのコストの一部から転じているが)、労働災害減少による早期退職年金、疾病補助金などの減少である。制度導入時に国庫補助金は一時増加したが、これは国庫補助をヘルパー数によって算出していたからであり、現在はこの算出方法は廃止されている。したがって制度導入による国の支出増加はない。6時間労働導入によるコミュニンの費用・収入、国の収入・支出をまとめると、公的コスト全体としては収入が増加したと言える。

ところでこの6時間労働の導入はヘルパーにと

ってどのような変化をもたらしたのであろうか。6時間労働導入による効果は以下のように報告されている。①身体的かつ精神的により良い労働環境の確保ができた。②リラックス・リフレッシュの機会が増大した。③充分休養ができるようになった。④余暇時間が充実した。⑤家族とくに子供の利点が増加した。⑥より健康的な生活をおくれるようになった。⑦給与の増加によって経済的により独立することができ、より活動的でより平等な生活が促進された。⑧病欠が減少した。⑨労働災害が減少した。

6時間労働の導入については、すでに1972年に社民党女性連合が要求している。キールナコミュニンの試みは、福祉スタッフの労働環境・職場環境改善への挑戦であった。それと同時にこの試みは、時短がもたらす意味をも多少なり示唆しているようだ。

(参考文献:

L.Svensson/M.Skanse, Hemtjänsten-Utveckling och 6-timmarsdag, 1944 Kiruna kommun, Verksamhetsberättelse 1995 Äldre-och Handkappomsorgin)

《 案 内 》

3・4月の催しものをご案内申し上げます。
皆様のご参加をお待ち致して居ります。

社会政策研究会

日 時 4月15日(火) 午後6:30~8:30
講 師 永山 泰彦氏(東海大学教授・研究所評議員)
テーマ 「スウェーデンにおける年金制度の改革とその背景……」
最近のスウェーデンの年金制度の改革について研究成果をお話し頂きます。
会 場 丸の内三井ビル4F
株式会社トーモク会議室
会 費 会員 無料 一般 1,000円
定 員 60人まで。(先着順)
共 催 財スウェーデン交流センター
/社日瑞基金

スウェーデン語夏期留学ガイダンス

日 時 3月28日(金) 午後6時30分~7時30分

4月5日(土) 午後2時~3時

ガイダンス講師 中村 友子さん(スウェーデン語講師)
ストックホルム大学を卒業、現在スウェーデン語などの翻訳や講師をされている中村さんを講師として、この夏のスウェーデンでの語学留学についてガイダンスしていただきます。
会 場 スウェーデンセンター5階 六本木事務所
会 費 参加費 1,000円(資料代含む)
定 員 両日とも 10人まで。(先着順)

その他の催し

☆現代スウェーデン・シルバー展

日 時 1997.3.3~1997.3.21

入場料 無料

場 所 スウェーデン大使館展示ホール

☆97年第2回 スウェーデン語講習会

日 時 1997.4.16~8.2

※詳しくは、パンフレットを80円切手を同封の上ご請求ください。

S 原子力発電論争が

原子力エネルギーは、スウェーデンの電力のほぼ半分をカバーしている。残りの半分は水力発電による。しかし、1980年に行われた世論調査では、国内にある12の原子炉を有する計4つの原子力発電所は2010年までに閉鎖するべきだという意見が大半であった。

原子力エネルギーにとって代わるものが不明確であるがために、他の反対派の政治家と同様に、向こう15年以内の原発閉鎖は実行不可能なのかを問う、与党である社会民主党員が増えている。

この数週間の、原発廃止に伴う最低保証額見積100億原子力クロネを要求するビジネスマンのデモには、政府の方針に疑問を持つ人たちも参加したが、今の不安定な国内財政の中で原子力に代わる燃料を利用する発電所の建設コストは捻出できないとの状況を反映している。

自由党党首の Maria Leissner 氏は、環境と、競争によって電気代が決まる国内産業の重要さを考慮すると、2010年という目標は不可能であろうと述べた。

「世論調査の結果は、これ以上新しく原発を建設すべきでないということであって、それは尊重したいと考えます。でも、原発を2010年までに廃止するという議会の決定は非現実的です。」

このコメントは、天然ガス・石油・石炭等利用の新規発電所建設は、国民の税金をムダ遣いするだけでなく、地球温暖化ガス削減に向けた原子力の国際環境に関する公約を裏切ることになるのではないかとの高まる懸念をうけている。

Leissner 氏のこの発言によって自由党は、原子力発電をさらに進めようとしている野党の穏健派と、2010年原発廃止は代替エネルギーの開発が定期的に追いつかないと主張しているエネルギー組、Jörgen Andersson 氏と手を組むことになった。

Ingvar Carlsson 首相は、1980年の世論調査によってすべきことは決まっているように感じるとしながら、問題をはっきりさせるためにも改めて国民投票を行う可能性を示唆した。性急な原発廃止実行には、水力発電の拡大が必要であるとの意見は環境保護主義者の厳しい攻撃をうけた。

Carlsson 政権下で少数派の社会民主党行政が

定期的に議会の援助を願っている、緑の党党首 Birger Schlaug 氏は、「緑の党は、水力発電を拡大するという話が現実的な議論になったら、現在行っている政府との協力体制をすべて崩すことも検討しています。」と述べた。

水力発電を拡大するということは、原子力北部の寒帯地域の主要河川にダムを増やすことを意味する。実際それを行うことで、社会は混乱し、ヨーロッパで以前にあった広大な荒地のようにその地域の生体系が失われるのはいうまでもなく、さまざまな法律面の障壁も出てくるであろう。

環境保護主義者たちは、有機燃料、太陽熱・風力エネルギーによる小規模の発電を将来的には行ってゆくべきではないかという議論がなされている。しかし、資源不足のために投資は見送られており、業界は原子力エネルギーに代わるエネルギーを、中期計画にも出せないでいる。

世論調査ではスウェーデン国民の大半が原発に反対であった。1986年のチェルノブイリ原発事故による広範囲の放射能汚染は、人々の記憶にまだ新しい。

それでも、とっさの代替エネルギーのないまま、原発を廃止することが得策かどうかを疑う人も多い。大企業にとっては、長年競争力のある利益を電気コストの低さから得たので、原子力エネルギーはなお価値のあるものなのである。

スウェーデン・アメリカ薬学の巨頭、Pharmacia & Upjohn の代表、Jan Elberg 氏は、原発は廃止するどころかもっと開発すべきだと述べた。

「この国で高い費用をつかって建てたものもつ専門技術に責任をもって、面倒をみてゆくべきです。」

自動車メーカー、Volvo 社会長、Bert-Olof Svanholm 氏は、原発廃止を「気違い沙汰だ」と言い、新しい資源による発電所の建設にかかるコストは法外なものだと説明した。

若手議員の中にも、自分が政界に入る以前に決まった方針に従うべきなのかと問う者が増えており、不安定な行政側の状況を今は見守るだけである。

社会民主党は、本件に関しては内部で意見が二分しているが、結局緑の党に傾いていて、非公式な議会協定を結んだ相手の中央党によって立場を明確にさせられるであろう。中央党党首の Olof

Johansson氏は原発廃止に向けた早期進捗を繰り返し主張し、社会民主党の将来的支援の代償として、本策を以前にまして望んでいるようである。

§ 一日6時間労働が失業者を救う？

一日の勤務時間を現行の8時間から6時間に短縮する見通しを受け、ホワイトカラー労働組合連合TCOの、本対策によって失業者が減り、景気にも好影響を与えるという報告

報告によれば、現行の週40時間労働を38時間に減らせば、20万もの新しい雇用口ができ、政府の失業手当による出費を19億スウェーデンクローネまで減らすことになるという。

国立経済研究所のKonjunkturinstitutetとの共同調査で、TCO紙は、スウェーデンの失業問題はいよいよ深刻なものとなっており、人々が職に就けるよう、緊急の対策が必要であるとした。

労組Anders Sundstrom氏は、この報告に対し、基本的に賛成であるとの見方を示した。「一日の労働時間がもっと短くなることを望んでいるんです。」但し、余暇が増える代わりに収入が減ることを皆うけいれなければならぬと忠告した。

批判主義者たちは、雇用者側は新しく人員を雇う負担を負うよりもむしろ生産性の向上を追求するかもしれないため、本対策が新しい雇用口を増やすという保証はないという。

「スウェーデン国内でも、国際的にも、労働時間の短縮が失業を解決するという保証は科学的にみて全きありません。」スウェーデン雇用者連合で主任エコノミストを務めるJan Herin氏はこう述べた。

彼は、TCOの報告は、国民の所得を引き下げ、消費と経済成長を踏みにじる、雇用への脅威であると批判した。

労働時間の短縮は、15年もの間労働組合側からの要望であったが、その間ずっと国民の理解を得ることができないでいた。しかし、失業率12%を記録し続ける状況下で、本対策はいまや事態緩和策として好意的に受けとめられつつある。

反対派の緑の党及び左の党は先頃の欧州議会選挙で二党合わせて30%の得票率という快挙をなしたが、彼らはもっと柔軟な労働原則と時間短縮が失業者を減らすと主張している。

彼らは、残業時間分を減らすことで何万もの雇用先が新しくできるであろうし、また超過勤務を規制する法律を作るべきだという。

TCO代表のInger Ohlsson氏は、全国的時間短縮を導入するのは容易でないと認めながら、大筋には賛成していると述べた。

「現在、労働時間短縮に関してははっきりしていることは何もありません。私も本策がどう作用するのかまだわかりません。でも、たいへん興味深い話であって、実際にやってみないでおくのはもったいないと思うのです。」と彼女は言う。「これは正しい方法を見つけ、適切な時期に失業者を減らすということなのです。今がその適切な時期だと私は考えています。」

(翻訳：戸羽由紀)

スウェーデン環境ニュース

ニッケル・カドミウム蓄電池をめぐる最近の動向から

自然保護庁(Naturvaardsverket)と化学薬品検査院(Kemikalleinspektjonen)では、自庁・院で使用される携帯電話やコードレス電話、携帯型パソコンに使用されているニッケル・カドミウム蓄電池(いわゆるニッカド電池)を、可能なかぎり代替品に置き換えてゆく方針を決定した。また、同庁・院の両長官連名で、各県行政機関、地方自治体、他省庁等に対し、同様の措置をとるように求める文書を送付した。この両氏によると、ニッカド電池には、これと同等かもしくはそれ以上の性能をもつ代替品がすでに出回っているという。

なお、カドミウムは食物を通じて体内に摂取・蓄積され、腎臓に対して特に有害な作用を及ぼす。そのため、ニッカド電池がゴミとして廃棄され、そこからカドミウムが自然界へ漏出する事態を防止する措置も必要である。

そこでスウェーデンのニッカド電池製造・販売業者らは、1995年、90%以上の回収率をめざして、使用済み電池の自主回収を始めた。また、1994年からは、電話機など各種製造品への取り外し不可能な形でのニッカド電池の装着が禁止されているが、これは使用済み電池の回収を円滑に進めるための措置である。さらに同国内では、1995年より、ニッカド電池1kgにつき13クローネ(およそ200円)の環境税が課されている。

この問題の背景には、スウェーデンで使用されているカドミウムの90%以上がニッカド電池に含まれていることと、充電式の電気機器の売り上げが近年急増している現状がある。

(1996年10月号より転載)

Japan Calendar

By Kaj Reiniuse-Press and Cultural Attaché

February Issue

Sweden's King and Queen to Japan for the "Grand Finale" of the SWEDEN CAMPAIGN 1996/97

The Royal Palace in Stockholm has now confirmed that Their Majesties King Carl XVI Gustaf and Queen Silvia have graciously agreed to visit Japan in connection with the ongoing SWEDEN CAMPAIGN 1996/97. The visit will take place at the time of the last venue of the campaign, Yokohama, where the historical exhibition "The Vikings and the Glory of their Descendants" will be shown during the May 10-June 22 period. Other high-lights during the Royal visit will include a seminar on Swedish explorer Nordenskiöld, an ethnic Same exhibition, a visit to the Swedish "Contemporary Craft Art Exhibition" at Toyama City, trade and investment seminars, Swedish food and product fairs and many social events. The Embassy is now in the midst of the preparations for this climax of the whole cultural campaign year in Japan.

ME/kr

ME : Main Embassy

tel: 5562-5050

fax: 5562-9095

CO : Commercial Office

tel: 5562-5000

fax: 5562-9080

STO : Science & Technology Office

tel: 5562-5030

fax: 5562-9090

ISA : Invest in Sweden Agency Office

tel: 5562-5014

fax: 5562-5130

Upcoming events :

FEBRUARY

1-9

Promotion of Swedish tableware at Tokyo festival

At this year's tableware festival at the Tokyo Dome premises several Swedish china manufacturers will be represented.

Extra attention will be directed towards the Nobel Prize traditions. On February 1 Press attaché Reinius will speak to the Japanese visitors on "Delicious Sweden".

ME/kr

3-21

Lars-Eric "LEJO" Johansson textile exhibition at Embassy

"LEJO", the Swedish artist considered talented and gifted enough to receive a scholarship from the French state for studies at the exclusive "La Manufacture des Gobelins", the world's leading institute of textile art in Paris. The Embassy is fortunate to be able to exhibit his art-work in Japan.

An inauguration party will be held at the exhibition hall of the Embassy at 18. 00 on February 3. Anybody interested should make an advance booking (tel: 5562-5039).

Time: 10. 00-17. 00 (daily)

Place: Embassy Exhibition hall

ME/kr

3-7

"Viking" participation in Sapporo Snow Festival

A viking will be the Swedish

contribution to the International Snow Statue Contest at the Sapporo Snow Festival this year. The Nilsson/Strang/Hjertin/Stjrnberg team, representing the Main Embassy, the S&T Office and the Ericsson company are being sponsored by VOLVO, ERICSSON and ZUJOLD. (S. O. S. skiwear). The Viking Venture has its own homepage on the Internet and there will be continuous progress reports given with pictures during the construction phase of the competition. The team will be online from the construction site and everybody should feel free to encourage them by e-mail. Home page: <http://www.japan.co.jp/~viking>. E-mail: viking@japan.co.jp

19

Volvo Safety Composition Award

The time has come for this yearly award to be given the best composition on traffic safety by Japanese school children.

Ambassador Vahlquist will attend the prize ceremony at the Embassy.

Time: 16. 30 (tentative)

Place: Embassy Exhibition Hall

ME/rk

15-22

Swedish Parliamentary Visit

Some 10 Swedish parliament members representing the Sweden Japan Parliamentary Association, led by Mrs Karin Fakkmer, will visit Japan on a strdy tour comprising visits to

the Japanese Diet as well as several other institutions and corporations in Tokyo and Kyoto.
ME/lv,kl,ny

24-28

Swedish Book Fair

The Swedish Book Fair is growing in scope year by year and this time more than 20 Swedish publishing companies are expected to participate.

Areas to be given special attention are: Equality Women-Men, Social Welfare aspects and Business/Management.

Time: 10. 00-17. 00

Place: Embassy Exhibition Hall
ME/kr

24-(March 21)

Major exhibit in Japan by "Contemporary Swedish Silver"

An exclusive exhibition of contemporary Swedish silver and gold items will be held at two Tokyo locations, one at the prestigious WAKO department store at the Ginza (Feb 24-March 1) and the following three weeks at the Embassy. The opening ceremony and reception in the presence of T. I. H. Prince and Princess Hitachi will take place at 18:30 on February 24.

ME/kr

25

SWEDBANK Seminar on Swedish Economy

Swedbank will host a seminar on the Swedish economy featuring Mr Hubert Fromlet, Senior Vice President and Chief Economist at the bank head office in Stockholm.

Time: 17:00

Place: Embassy auditorium
ME/rk

MARCH

3-21

Embassy exhibits "Contemporary Swedish Silver"

The Embassy will take over the Swedish silver exhibition from the Ginza Wako Department

Store.

Time: 10. 00-17. 30 daily

(Sat & Sun 11. 0-17. 00)

Place: Embassy Exhibition hall
ME/kr

3

Nordic Lumber Seminars

The Commercial office will on behalf of Nordic Timber Association arrange the 3rd Nordic Lumber Seminar in Japan during the month of March.

Apart from gatherings at Nagoya Chamber of Commerce and Industry (March 4) and at Sendai Kokusai Center (March 6) the seminar in Tokyo will take place as follows:

Place: Shinjuku Park Tower

Time: 14:00, March 3

CO/kh,ty

4

"Silver for SWEA"

A special presentation of the exhibition will be given the SWEA association members in Tokyo by Ms Britte Grue newald-Gronberg and some artists from the Nutida Svenskt Silver.

Time: 10. 30

Place: Embassy Exhibition hall
ME/kr

4-5

Sapporo Nobel Exhibition

A whole set of events commemorating Alfred Nobel and the Nobel Prize will take place at the Park Hotel in Sapporo in the presence of several specially invited guests from the City of Stockholm.

These will include a special Nobel exhibition, lectures by invited Nobel laureates, Nobel dinners et. c. Ambassador Vahlquist will attend from the Embassy.

ME/kr

6-11

Swedish products on display at Sapporo fair

The well known Marui Imai Department store will hold a Scandinavian product fair where a variety of Swedish products

will be exhibited.

Place: Marui Imai, Ondori-kan

Time: 10:00-19:30

CO/yt

18-27

Swedish Good Design exhibition

An exhibition featuring the best of Swedish design will be arranged by Svensk Form in cooperation with the Embassy in Tokyo at the invitation of Japan Industrial Design Promotion Organization - JIDPO - under MITI. Products to be exhibited have all been awarded "Utmarkt Svensk Form" and will include toys, work and kitchen utensils, glass, safety tools for the elderly, furniture, textile et. c.

Ambassador Vahlquist will represent the Embassy at the opening at 13:00 on March 18. Place: World Trade Center, Hamamatsucho, Tokyo
ME/kr

14

Honorary Consuls' Meeting

An annual meeting of Sweden's honorary consuls in Japan will be held at the Embassy followed by dinner at the Ambassador Vahlquist's residence.

16

Embassy Folk Dance Evening

To commemorate the Sweden Campaign a Swedish Folk Dance troupe will perform at the Embassy Residence. The group will also appear at the Nagoya and Sendai venues for the campaign's main attraction The Vikings and the Glory of their Descendants' exhibition.

Place: Ambassador's residence

Time: 19:00

ME/kr

20

Vasa Ski Competition

This annual Swedish ski event will again take place at Asahikawa City in Hokkaido. Ambassador and Mrs Vahlquist will participate from the Embassy.

Vol.27 研究月報目次一覧

No. 1

新年の御挨拶	松前 達郎	1
New Year's Greeting		
	カローラ・タム	2
大江健三郎氏のノーベル文学賞受賞式典にて		
	マグヌス・ヴァールクヴィスト	3
グループホームとモダン老人ホーム		
	山井 和則	4
研究会報告		7
平成5年研究所活動メモ		8

No. 2

北欧新時代の幕開け	武田 龍夫	1
EU加盟とスウェーデン財政		
	藤岡 純一	2
お知らせ		3
スウェーデンの「政府」と「NGO」の低い壁		
	馬橋 憲男	4
研究会報告		6

No. 3

スウェーデンモデルからヨーロッパモデル?		
	宮本 太郎	1
1995/1996予算案について(1)		
	多田 葉子	2
パルメの民主主義 未来に向けて		
	高橋 仁	4
『子どもの権利(My Rights)』を翻訳して		
	小笠 毅	5
研究会のお知らせ		6

No. 4

巻頭 絵	深井 節子	1
変貌する高齢者向け住宅		
	小川 正光	
	筒井 忍	2
スウェーデン~百聞は一見るにしかず		
	廣瀬 満重	4
児童虐待防止機構の一員としての地区医		
	福本 朗	5
書籍紹介		6

No. 5

法的規制避けるためのメディア責任制度を		
	浅野 健一	1
インターネットのスウェーデン情報		
	川崎 一彦	3
1995/1996予算案について(2)		
	多田 葉子	5

研究会報告

	佐々木垂紀	8
研究会他ご案内		9
エコロジークラブ便り		10

No. 6-7

スウェーデンの高等教育改革		
	伊藤 正純	1
スウェーデンの交通政策と鉄道改革		
	堀 雅通	3
スウェーデンの学童保育(1)		
	小暮 健一	4
体験スウェーデン	是永かな子	6
お知らせ		9

No. 8-9

最近のスウェーデン		
	飯野 靖四	1
学校が変だ	三瓶 恵子	2
スウェーデンの学童保育(2)		
	小暮 健一	4
新刊紹介		6
お知らせ		8

No. 10

性教育と民主主義	レーナ・リンダル	2
シンポジウム		
「北欧から見た日本—その虚像と実像」報告		
	川崎 一彦	3
Fax from Sweden		4
会員の皆様へ		6

No. 11

スウェーデンでは、公的情報は市民みんなのもの		
	潮見憲三郎	1
Current Sweden 目次一覧(16)		3
研究会報告		4
Fax from Sweden		5

No. 12

恵比寿ガーデンプレイスでのロシア祭とエコロジー研究会		1
キールナコミュニケーション、ホームヘルパー6時間労働の試み		
	多田 葉子	2
ご案内		3
Faxed from Sweden		4
スウェーデン環境ニュース		5
Japan Calendar		6
Vol.27 研究月報目次一覧		8